

# 識別は楽しい♡

海老原美夫（浦和市）

## 【PART 1】タシギとオオジシギの場合

今年の2月初め、茨城県古河市に住んでいる埼玉県支部会員のKKさんから手紙が届いた。

本誌昨年12月号の拙文「タシギとオオジシギの識別」を読んで、古河市内の蓮田で越冬しているタシギの群れの近くに不思議なジシギがいると、ビデオプリントを送って下さったのだ。

KKさんの疑問点は、胸が茶褐色で斑は目立たず、腹部から下尾筒あたりまで茶褐色、頭・背・翼あたりはくすんだ感じで、タシギとは違うのではないか、ということだが、送られたプリントと手紙の記述で私が気になったのは、

- 1, 下の肩羽が小さくて後縁が白く見えること。
  - 2, 頭側線が茶色で白い斑点が混じっていること。
  - 3, 飛んだ時の次列風切後縁の白が細いと報告されていること。
- の3点だ。

1はタシギ以外のジシギ類、2と3はハリオシギの特徴と言われているからだ。

早速次の休日、2月11日に案内してもらった。場所は古河駅に近い住宅地と農地が接するあたりの、生活排水などが流れ込んでいる湿った水田。

確かに1羽だけ他のタシギとは行動も違い、水中ではなく畦の上でミミズ類を採餌し

ている。これもジシギ類の特徴だが……

寒さをこらえて日没近くまでビデオカメラを回し、特に尾羽を広げたところを撮影できないかとねばり、後日映像を入念にチェックした。

その結果は、

- 1, くちばしは基部が特に太くなく、長さは長い。
- 2, 下の肩羽の黒い模様は矢尻形ではない。
- 3, 下の肩羽は、小さいというより、長さが不揃い。これは、換羽中のためかもしれない。
- 4, 飛んだ時の次列風切後縁の白は太くて明瞭。

- 5, 尾羽が翼より長く出ている（ハリオシギの場合、尾は短い）。

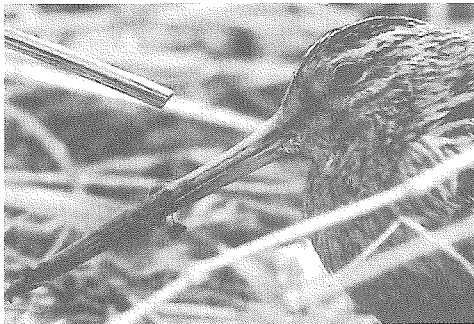
そして決定的なのは、

- 6, 広げた尾羽のクローズアップ映像が明らかにタシギのパターン。

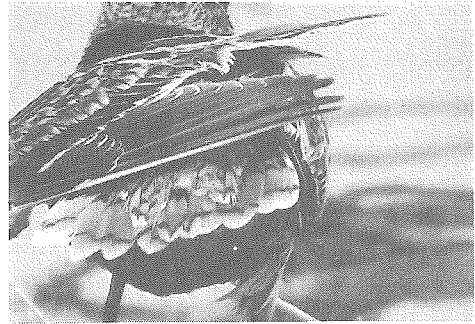
私はこの個体はタシギと同定した。

しかし、頭側線の色と斑点、下の肩羽後縁の細かい白、採餌行動などは疑問として残り、今のところはタシギでもそういうこともあるのでは、としか言いようがないが、私としては新たな知見を得たとも言える。

ああでもない、こうでもないと考えながらビデオカメラを回している時も、その後のああだこうだも含めて、識別って、本当に楽しい。



頭側線・顔・くちばし



尾羽

## [PART II] コサギとカラシラサギの場合

8月2日(土)、暑さを避けて谷津干潟の日陰でのんびりと、渡り始めのシギ・チドリ類を楽しんでいたら、通りがかった人が、むこうにカラシラサギがいるという。

毎年のようにこの時期ここではカラシラサギの情報が飛びかうが、それまで私が見た限りでは、全部コサギだった。

くちばしの根元が上下とも黄色、脚の黒色が薄いというだけでカラシラサギと言うのだが、コサギが成長する段階でそういう特徴を見せるのは普通。

今回も、あれがそうだと指さされた個体は、やはり成長途中のコサギにしか見えない。それでも、ある信頼すべきバーダーが自信をこめて同定しているというので、レンズを向けてみた。

やがて、その個体が近くに寄って来て、目先の色があざやかな黄緑色であることが見えた時、James HancockとJames Kushlanが世界のサギ類を纏めた『THE HERONS HANDBOOK』の中のカラシラサギの非繁殖羽についての記述「目先はyellowish-green」を思い出し、ことによったら、と考え出した。

そう思ってみると、

- 1, 冠羽が太くて短い。
- 2, 採餌の行動が他のコサギより活発。
- 3, 他のコサギと追ったり追われたりがはげしい。
- 4, くちばしの先半分は黒というより薄黒。
- 5, 脚も足指も緑色を帯びている。
- 6, コサギの大きさは個体差があるが、その内最も大きいタイプとほぼ同大。

などという特徴も見えて来た。

これらはコサギでもあり得る特徴なのだが、カラシラサギの特徴とも矛盾しない。

翌3日(日)もビデオ撮影に時間をかけ、念の為、その近くにいるコサギ達の目先の色をかたっぱしからチェックしたが、他には鮮やかな黄緑色のコサギはいない。私の記憶でも、目先が鮮やかな黄緑色のコサギを見た覚えがない。

その後、『THE HERONS HANDBOOK』やその他の図鑑類のコサギの目先の色についての記



目先は鮮やかな黄緑色だが

述を探し回ったが、おおむね青灰色や緑灰色。鮮やかな黄緑色という記述は見つからなかった。この時点で疑問点を含みながら、私の判断は、かなりカラシラサギの方に傾いたが……、何日かして、しばらく読んでいなかった高野伸二さんの『野鳥識別ハンドブック』が目について、そうそうこの本もあったと、何気なくコサギの項を広げてみると、なんと「目先の裸出部は緑黄色または淡青灰色」とあるではないか。

えっ、ウッソォ。目先が緑黄色のコサギもいるとすると、あの個体がコサギではないとする根拠は何もなくなってしまわない。

8月23日(日)、神奈川県海老名市の水田にオオジシギを見に出かけ、ついでにコサギの目先の色を調べてみた。5羽の内1羽が少し黄緑色に、少なくとも1羽がかなり鮮やかな黄緑色に見えた。

君子は豹変する！ 既にライフリストに1種追加してしまった人には申し訳ないが、あれはやはり成長途中のコサギだったのだ。そう判断すると、すっと無理なく胸に落ちた。

私は、この「すっと胸に落ちる感覚」というのを大切にしている。その後も多くの人たちがカラシラサギと判断しているという話は聞いているが、ここでは書き切れない体型・脚の長さ・くちばしの形なども検討し直した結果として、私はコサギで決定!! 珍鳥に関する海老原の法則「珍鳥が普通種かと迷う時は、普通種の方だ」も、よみがえった。

逆転に次ぐ逆転。世間様にあえて自分の浅学ぶりをさらしつつ、人によって様々に意見が分かれることも含めて、識別は本当に楽しいと、やはり私は申し述べたいのだ。